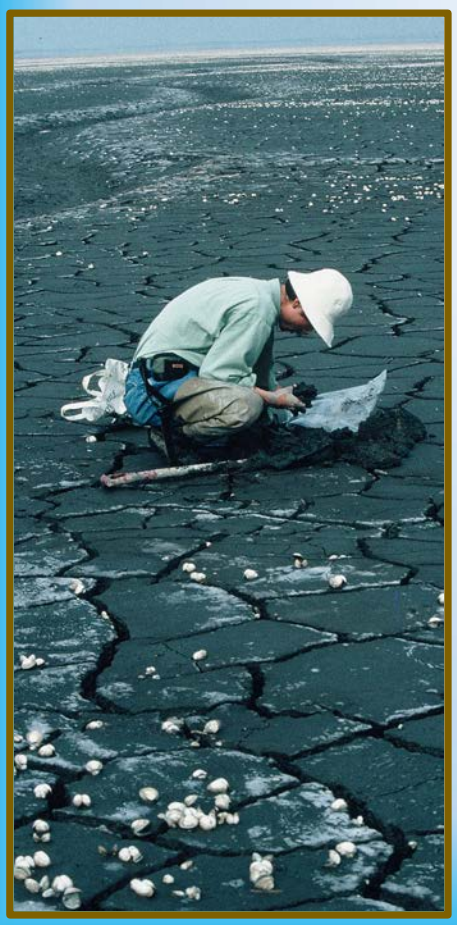
教育関係共同利用拠点事業
臨海資源科学演習　講演会

干潟の生きものたち

―基礎生物学の視点から日本の海辺を見つめ直す―

講師：佐藤正典　教授（鹿児島大学）
日時：９月５日（火）１３：００～１５：００
場所：C314号室

【要旨】海辺は、海と陸の境界であり、潮汐に応じて定期的に干上がる場所を含む。内湾の奥部や河口域では、そこに砂泥が堆積して、遠浅の干潟が発達する。内湾・河口域の干潟生態系は、陸からの栄養と太陽からの光エネルギーを共にたくさん受け取ることができるので、海の中で最も高い生物生産力を有する場所の一つになっている。魚介類が主な食物だった古代の日本人にとっては、そこは豊富な食料を生み出してくれる聖地だったはずだ。ところが、近代の日本の社会は、「沿岸開発」や「防災」という名目でこの聖地を破壊し続けている。その結果、100年前には日本各地で普通に見られた干潟生物の多くが急速に姿を消しつつある。有明海奥部と瀬戸内海西部（周防灘）には、そのような絶滅危惧種が今なお多く生き残っている貴重な場所が存在する。そこは、地域の人々の伝統的な漁業が今なお営まれている稀有な場所でもある。そこに生息している生物の種名を正確に知ることによって、そこがどれほどかけがえのない場所であるかが見えてくる。しかし、有明海奥部では、諫早湾干拓事業による環境破壊が今まさに進行中であり、周防灘では、原子力発電所の建設が計画されている。



※この講演は、５研究科共同セミナーになります。

【問合せ先】　大塚　攻（生物圏科学研究科）
(tel 0846-22-2362; e-mail ohtsuka@hiroshima-u.ac.jp)